

中村健教授退任によせて

## 中村先生との思い出

——感謝を込めて——

山 崎 明 宏

はじめに

中村健先生、ご退職誠におめでとうございます。

今や学校現場で常識となった「チーム支援」の概念とその方策について、先駆的な役割を担われ、教育界に多大な貢献をされたことは、誰もが知るところです。

そんな偉大な中村健先生は、私にとって、師であり、恩人であります。そして、ご本人にお許しただけならば、私は「中村先生の友人の一人である」と誇らしい気持ちを込めて宣言したいと思います。私が中村先生と知り合え、関わりを持てたことは、私の人生において、大きな喜びです。

中村先生と関わりを持った数多くの方々の中の一人として、この『中村健教授退任記念論文集』に私の拙い文章を記載できることは、先生の傍らで、私が生きた証を残せることであり、この機会をいただきましたことに感謝したいと思います。

本稿では、中村健先生への感謝の気持ちを込めて、先生とのこれまでの関わり的一端を記すことにします。

### 1 出 会 い

私は、中村先生のことを親しみを込めて「健さん」と呼びさせていただけにありました。以後、「健さん」で通したいと思います。

健さんとの出会いの場は、兵庫教育大学の大学院でした。出身が二人とも大阪であることから、共通する話題があり、気づけば知り合いになっていたように思います。二人とも社会系に所属していましたが、健さんは私と違って「生徒指導」コースでの研究を強く望まれていました。ところがどういういきさつがあったかは不明ですが、「生徒指導」コースではなく、それとは違うコースに配属されることになったようです。しかし、そのことに屈せず、ゼミを決める際にもご自身の研究したいテーマをしっかりと持たれていて、「生徒指導」の授業もあわせて受けておられたように記憶しています。当時の私は「ふーん、そうなんだ」と感心していましたがこのことの

すごさを感じることはありませんでした。今思えば、健さんは、自分の思いや希望を大切にされ、そのことを実現するにはどのように行動すべきか、適切に判断し行動できる人でした。このことは健さんの輝かしい足跡を残すに至った原動力であったと思います。

## 2 4号棟单身寮

当時は二人とも4号棟という「单身寮」で居住していました。台所、ふろなどが共有であり、学部生とも同居していました。若くて、しかも男性ばかりの住まいであるためか、共有スペースは散らかり放題であり、そこは、あまり近寄りたくない場所でありました。そんな時、健さんともう一人の友人とで、「汚れた風呂を何とかしたい」という話になりました。3人とも汚れて不潔な風呂の現状に辟易としていたのでしょう。さっそく3人でふろの大掃除をすることになりました。汚れの激しい湯舟や床をブラシで何度もこすり、ずいぶん時間をかけて作業したことを覚えています。30過ぎのおじさんが3人、真顔で浴場の大掃除をしているのですから、その光景は滑稽でもあり、微笑ましくもあったと思います。「きれいな風呂でゆっくり湯につかりたい」というよほど強い動機があつたのでしょう。終わって、湯に浸かった時、本物の銭湯のにおいがして、「いいものだ」と心が和みました。

あの大先生である中村先生と浴場の掃除を一緒にしたのは、自分ぐらいだろうと今では自慢でもあります。

## 3 ソフトボール

私のゼミでは、指導教官の岩田先生がソフトボール好きで、毎週、ソフトボールの試合をしていました。その日も、試合をしていたのですが、通りかかった中村先生を呼び止め、無理やりバッテリーボックスの立たせたことがありました。健さんは昔野球をやっていたと噂があり、そこにいた皆が健さんの実力を試したいと考えていたのです。彼は、左バッテリーボックスに入り、打球に逆らわない流し打ちを披露しました。結果は見事、レフト前ヒットでした。彼はソフトボールにおいても役者でした。まあ、あの時は、まだ若くて、動けたのですねえ。

## 4 初のカウンセリング？ インタビュー？

健さんが受講している授業の一環で、健さんから私にインタビュー？ カウンセリング？ の相手になってほしいと依頼がありました。もちろん断る理由もなく承知しました。場所はどこだったかよく覚えていませんが、個室だったように思います。二人とも大真面目、なにせ授業の一環でしたし、後の検証に使うためか、やりとりを録音していたように思います。私の気ままな受け答えに健さんは四苦八苦したのではないのでしょうか。もっと素直に、返しやすい答えをすれば

よかったかなとも思います。このやり取りの中で、私自身について深く語ることもあり、そのことを中村先生に知ってもらえたことで、二人の距離が、また、近づいたように思いました。とにかく、あの中村健大先生のカウンセリング？ の第1号になれたことを自分勝手ではありますが、密かな自慢としています。

## 5 留学生会館

单身寮が工事か何かの理由で、4号棟の私たちは転居する必要に迫られました。簡単にどこそこへとも決められない中、中村先生が大学にかけあってくれて、菅さんと私を含めて3人で留学生会館の一室を使えるようになりました。新築で部屋も広く、单身寮と比べればそれはもう別世界でありました。ここから3人の共同生活が始まったわけです。中村さんは料理が上手で、よく夕飯を作ってくれました。おっさん3人で「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」という声掛けがしばらく続いたのです。なんとも異様な光景でした。

## 6 湯原温泉

单身寮にいたときか、留学生会館に引っ越した後のことか忘れてしまいましたが、ふと「湯原温泉」に行こうという話になり、健さんと菅さんと私の3人で夜中に車を走らせたことがありました。どういう風に運転したのか、道中どんなことがあったのか思い出せないのですが、到着するとすぐ湯原の露天風呂につかりました。寒い季節だったためか、真っ暗な中で、もうもうとした湯気でまったく前が見えない状況で、女性の声が聞こえたことだけ鮮明に覚えています。

こういう一時を過ごせたのは、单身赴任の気軽さゆえのことであり、本当に懐かしく、そしてこのような時間を健さんと共有できたことを嬉しく思っています。

## 7 転 職

中村先生は、大学院修了後、学校現場の管理職としてご活躍されていました。ところが、何年かするといつのまにか、大学でお勤めになっておられました。驚きましたし、ご自身の進みたい道を明確に持ち、その実現に向けて一步一步確実に進んでおられたのだなと思いました。その時の私は、ただただ「すごいなあ」という感覚で、「自分とは違う世界に生きている方なんだ」とある種の眩しさを感じていました。

ところが、菅さんが中村さんに触発され、大学の道を目指され、転職されました。これもまた、大きな決断をされたものだと驚いたのを覚えています。私は当時、小学校に復帰し、教務主任などをしていました。

そんな時、中村先生から「京都造形芸術大学」での非常勤講師のお話をいただきました。でき

るのだろうかという不安を持ちながら大阪市に兼職願いを提出し認められ、非常勤講師として大学での授業の1コマを担当させていただきました。これが私の人生における大学での教員としてのスタートでした。「教育課程論」という科目でしたが、授業の中で児童が描いた絵画の写真を学生さんに提示したところ、大きな反響がありました。芸術に携わる学生さんにとって、純粋に自分の思いを込めた児童の絵画は新鮮だったようです。「児童の絵画にふれて、自分の原点を見つめなおすことができた」と感想をいただきました。私にとって、小学校現場での教育活動と大学での学生さんとの学びの接点が生まれた意味において、とても貴重な体験をさせていただきました。全て健さんのおかげです。

それからしばらく時間が過ぎ、今度は健さんから大学で働いてみないかとお声をかけていただきました。その時、私は教頭をしていたのですが、いろいろと考えることがあり、健さんのお話を受け、大学の面接を受けることにしました。結果は駄目だったのですが、合格した方の不祥事が明るみとなり、なんと私が繰り上げ合格となったのです。これで兵庫教育大学大学院で留学生会館で同じ部屋で起居した3人が3人とも大学で勤務することになったのです。そんなこと、自分もまったく想像ができなかったことでした。しかし、確実に言えることは健さんが初めに道を拓き、二人にその道筋を示してくれたからこそ実現できた事です。全て健さんのおかげです。

## 8 チェジュウ？

いつか学会の帰りに昼食を二人でとっている時、いろいろな話をしました。健さんとはいろいろな話をしますが、その時は心の扉を一つ新しく開いてお話ししていただいたのを覚えています。率直に健さんは「素敵な人だな」「応援したいな」と思いました。その後、私は、琵琶湖の畔の有名なホテルの玄関である貴婦人にお会いしました。一目会ったその時に「チェジュウ？」とあやうく声が出そうになりました。風に髪がそよいでいました。横で健さんが微笑んでいました。懐かしい思い出です。

## 9 研修会

私は健さんから、いろいろな研修会に講師として参加する機会をいただいていた。仕事においてもどんなことでも何でも、健さんから授かっていたのです。（つくづく健さんがいないと何もできないと自覚しています）

健さんと一緒に講師を務めた、保育園や幼稚園の先生方対象の研修会での事です。先に健さんが研修会を進められ、参加者の反応は大変よく、実りの多い機会となっていました。次に私が講師を務めると、参加者の表情が硬くなり、失望させていることをひしひしと感じました。原因は、私の話が拙いことと、準備してきた内容が参加者のニーズにあっていなかったことでした。横にいた健さんは何も言わず私の話を聴いていました。きっと頭の中では「何をしてるねん、この内容は何や」と厳しい言葉であふれていたことでしょう。せっかく健さんに紹介していただいたの

に、ご迷惑をおかけし、今も申し訳なく思っています。健さん「ごめんなさい」

このように怠惰な私が、仕事の内容について振り返り、学ぶきっかけを作ってくくださったのが健さんでした。健さんの授業や講演は私の目標でもありました。

## 10 第3の就職

2回目の転職をしました。勤務していた大学を出て、愛知県のある大学に赴任することになりました。この転職についても健さんのお力添えをいただきました。遠方ですので、単身赴任することになりました。アパートを決めて引っ越しをすることになり、荷物を自分で何度かに分けてちまちまと運んでいたのですが、洗濯機だけ自分の力だけではなんともなりません。なにせ部屋はエレベーターなしの3階だったからです。そこで、中村先生に助けをもらうことにしました。ところが洗濯機はなかなか強敵でした。重くてふらふらして階段の壁に腕を擦りつけながら、ふうふう言って二人で運びました。部屋の中に据え置き、配管などをセットするのに手間どっていると、見かねたのか健さんが代わってくれました。「こうか？ こうか？」と何度も試行錯誤しながら見事にセッティングを完了させてくれました。頼もしい、健さんでした。

あの中村健先生に洗濯機を3階まで運ばせ、その上、セッティングまでさせたのは、多分この世の中で私だけではなかろうかと密かに自慢に思っています。何もかも健さんのおかげです。

## 11 仕事の流儀

いつのことだったか、チーム支援の打ち合わせに同席することがありました。健さんがリーダーで会議を采配していて、そこでは、決定していく事柄が簡潔で役割と手だてと期限が明確になっていました。私が経験した会議では、ややこしい意見が飛び交い、難しい内容になると誰もが険しい表情になってしまうことがよくありました。ですから、この会議での経験はまさに「目から鱗」でした。両者の会議の何が違うのか、それから考え続けました。

ある日、健さんと、私が関わっている学生さんとの話をしている時、「距離感」ということが話題になりました。私の学生との関わりの距離感が健さんとは違うと言うのです。彼の言うことがよくわからないまま、時が過ぎたのですが、おそらく「近すぎて見えない、俯瞰できない、見通しを冷静に立てることができない」ということだったのではないかと今では思っています。そして、距離感を持って俯瞰し、資源の可能性を理解した上で、確かな見通しを持つことが、チームの采配をする上での必要条件なのではないかと考えるようになりました。

後に、健さんは「失敗しない方法を考えて実行するから、失敗はない」と語ってくれたことがありました。チームの会議での決定事項は簡潔、明瞭です。しかも誰もが「できそうだ。いついつまでにやります」と思えるからこそ、課題が見つかることはあっても決して失敗はないのだということを学んだ気がします。

「私失敗しないから」、どこかのテレビドラマでの主演の台詞ですが、私の中では健さんの仕事

の流儀と言えるものだと考えています。

### おわりに

中村健先生との思い出では尽きることがありません。壮年期の入り口あたりで出会い、その都度大きな影響を受け、私の人生そのものに意義ある変革をもたらしてくださいました。先生はことあるごとに学ぶ機会を与えてくださったのです。そして、常に人生の目標としてその存在を意識していました。

先生は今後も、社会に対してその知見を広めていかれるでしょう。どうかお体に気をつけて、教育界の後輩をお育てください。

そして、私とも変わらず友であり続けてください。

健さん、ご退職おめでとうございます。

そしてこれからもよろしく願います。